

2016年度ヤング・ポートフォリオ

Young Portfolio Acquisitions 2016

会期：2017年3月18日(土)～6月18日(日)

選考委員：張 照堂(台湾)、北島敬三、細江英公(館長)
北欧からアジア、日本まで、世界の若い写真の力が集結

11カ国の25人、158点を一堂に展示

ヤング・ポートフォリオとは、世界の若手写真家を支援するために、彼らの「原点」となる貴重な初期作品を購入し、後世に残す活動。毎年一度、同名の公募を行っている。



アル・ラプコフスキー AI LAPKOVSKY (ラトビア、1981) *I need more Lego* (もっとレゴがほしい), 2016

■2016年度ヤング・ポートフォリオ（以下YP2016）の見どころ（*作家の年齢は応募時のものです）

●“ラトビア・エモーション”：アル・ラブコフスキー

本リリース表紙アル・ラブコフスキー（35歳）のシリーズについて、北島選考委員は「独特の情緒があって魅力的。これを“ラトビア・エモーション”と私は呼びたい」と、高く評価。シュルレアリスム的な世界観を、自然に撮影したように見える技術力と表現力には特筆すべきものがある。ラトビア出身で、ロンドン在住のラブコフスキーは、過去のヤング・ポートフォリオ（2007,2008）でも2回収蔵。

●東欧の幻想：セルゲイ・レベディンスキー（ウクライナ）、ピョートル・ズビエルスキ（ポーランド）

セルゲイ・レベディンスキー（34歳）《ティモシェンコの脱獄》は、ロシアからの資源購入に関する権力濫用を問われて投獄されたウクライナのユリア・ティモシェンコ元首相がテーマ。作者は、このシリーズで、ティモシェンコが脱獄して夜の町を彷徨う“政治的幻想物語”を描いている。ソ連崩壊後の社会の様相を、批評性とユーモアに富んだイメージで表現した。レベディンスキーは、ソ連時代の貴重な印画紙を使用し、化学的な反応の面白さや偶然性が魅力で、2枚と同じものを仕上げるのが難しい、リスプリントという技法を駆使している。



右：セルゲイ・レベディンスキー《無題「ティモシェンコの脱獄」シリーズより》2012



ポーランドのピョートル・ズビエルスキ（29歳）は、シリーズ《白い象》、《石は土台で失われた》などを展示。ズビエルスキは、ポーランド人の感情、儀式、振る舞いなど、すべての伝統には古くからの異文化も影響していると考え、イタリアやインドを旅して撮影。東欧と異なる世界に身を置き、光溢れる国々で受け止めた印象を視覚化している。

二人の作品は、本展のなかでも強烈に感覚に訴える、特異な個性を放っている。

左：ピョートル・ズビエルスキ《無題「愛は作り直さなければならない」シリーズより》2012

●地元・山梨県北杜市出身の新進作家：高島空太、トキタシオン

高島空太（28歳）は、2014年度に続き2度目の収蔵。高島は、複数の画像をデジタル融合させ、壮大な異空間を作りあげた。細江選考委員（館長）は「重厚感がある。20世紀の文明とクラシックな文化との融合。混沌の中に新しいものが立ち上がりようとしている写真」と高く評価。右上：高島空太《無題》2015



イラストレーター、絵本作家でもあるトキタシオン（23歳）は、YP2016展示作家の中で最年少。見慣れた街の風景にカラフルな線や色を描き加えた、独自のポップな世界。「このおもしろがり方に嘘はないと思う。これからどんどんグループして欲しい」（北島選考委員）、「新しい表現をしていこうという意欲がわかる」（張選考委員）と、3人の選考委員がクリエイティブな姿勢を評価。右下：トキタシオン《wrap》2015



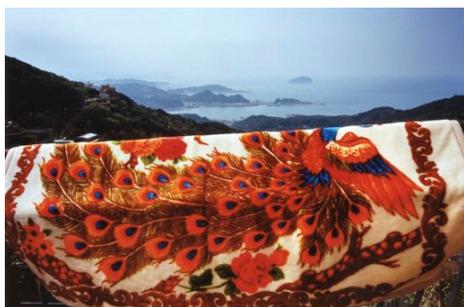
果敢なチャレンジを恐れない二人は、今後の展開が大変楽しみな新進作家。



●台湾のシュルレアリスム

YP2016には、台湾から多数の応募があり、4人の作家：チェン・ヤンチェン（28歳）、ジャン・ジェンハオ（31歳）、リン・シュエンラン（29歳）、リン・ウェンチャン（31歳）による作品を収蔵。

左：チェン・ヤンチェン《離家#8》2014



北島選考委員は、「ものすごく自由を感じる。むしろ日本の方が保守的」とコメント。台湾の典型的な日常を、際だった色彩や、大胆な構図によって、シュルレアリスティックに表現し、独自の世界を展開している作家が多く見られる。

左：リン・シュエンラン《台北再会》2015

●初の外国人選考委員：張照堂氏

YPは初めて海外から選考委員を迎えた

昨年5月の「YP公開レセプション+アーティスト・トーク」には、アジアの隣国、韓国、台湾をはじめ、ロシアやポーランドなど、これまでで最も多くの外国人作家が来館。YPがますます国際化するなか、初めて海外から選考委員を迎えた。

右：選考風景。左から張照堂、細江英公、北島敬三



<張照堂 (CHANG Chao-Tang) ・略歴>

1943年生まれ。台湾の戦後世代を代表する写真家の一人。1950年代より、台湾固有の伝統や西欧のアバンギャルドなモダニズムなど、様々な影響を受け、既成の枠に当てはまらない独自の世界を生み出している。1970年代より海外での発表を重ね、台湾のアーティストとして最も名誉ある国家文芸賞（1999）、行政院文化賞（2011）を受賞。この両方を受賞したのは、張氏が初めてである。2013年台北市立美術館にて初の回顧展「Time: The Images of CHANG Chao-Tang (歲月：張照堂 影像展)」が開催された。日本においては2015年に「さがみはら写真アジア賞」を受賞した。

同時展示

●選考委員の初期作品各5点（全15点）を、同時に展示いたします。

■2016年度ヤング・ポートフォリオ（第22回）データ

選考委員：張照堂、北島敬三、細江英公(館長)

作品募集期間：2016年4月15日～5月15日

応募者数：205人（世界26カ国より）

応募点数：5123点

購入者数：25人(国内12人・海外13人 / 11カ国)

日本/台湾/マレーシア/ラトビア/ウクライナ/フランス/チェコ/フィンランド/オランダ/ポーランド/ロシア

購入点数：158点（全作品を展示いたします）

■作品購入作家★は過去にもヤング・ポートフォリオで作品を収蔵した作家

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 ■千賀健史（日本、1982） | 13■チェン・ヤンチェン（台湾、1988） |
| 2 ■藤元敬二（日本、1983） | 14■ジャン・ジェンハオ（台湾、1985） |
| 3 ■林典子（日本、1983）★ | 15■リン・シュエンラン（台湾、1987） |
| 4 ■平野聡（日本、1983） | 16■リン・ウェンチャン（台湾、1985） |
| 5 ■岩本悟（日本、1982）★ | 17■チョン・コクユウ（マレーシア、1988）★ |
| 6 ■北田祥喜（日本、1987）★ | 18■アル・ラブコフスキー（ラトビア、1981）★ |
| 7 ■前田和也（日本、1983） | 19■セルゲイ・レベディンスキー（ウクライナ、1982）★ |
| 8 ■中悠紀（日本、1991）★ | 20■ジェニファー・オヘリース（フランス、1981） |
| 9 ■齋藤大輔（日本、1982） | 21■ミハエラ・スプルナー（チェコ、1981）★ |
| 10■高島空太（日本、1988）★ | 22■イーダ・ターヴィツァイネン（フィンランド、1987） |
| 11■トキタシオン（日本、1993） | 23■ハンネ・ファン・デル・ワウデ（オランダ、1982）★ |
| 12■内倉真一郎（日本、1981）★ | 24■ピョートル・ズビエルスキ（ポーランド、1987）★ |
| | 25■アリョーナ・ランダーロワ（ロシア、1988）★ |

■当館がYPに求めるもの・・・YP2016選考委員・細江英公（館長）

「美術館の立場としての理想は『こんなのは見た事がない』という作品に出会うこと。なかなか難しいことは事実ですが、常にそういうものを求めています。一番欲しいのは“新しい命”と言いますか、今まで見たこともない、名前も聞いたことがない、でも面白い、大きなエネルギーを感じる作品。当館では、実験精神、何かをやろうとする若々しさ、そういうものを評価しながら作品を収集して行きたいと思っています」

■YP世代（35歳まで）の作品が持つ魅力・・・YP2016選考委員・北島敬三

「私は、綺麗に磨き上げられた宝石でいるよりも、永遠に“原石”でいたいと思っています。完成度の高いものよりも、原石のようなもの、つまり可能性が見たい。自分自身も常にそういう存在でいたいからなのですね。作家は常にその方が良いのです」

■YP時代（35歳まで）にもっとも重要なこと・・・YP2016選考委員・張照堂

「自分の例で言うと、若い時期に、自分の思ったように、ひたすらストレートに突き進むことは非常に大事だし、貴重な経験です。誰がなんと言おうと一生懸命撮る。他人の評価を気にしない。若い時代はGoing my way!」

開催概要

展覧会名：2016年度ヤング・ポートフォリオ

会 期：2017年3月18日(土)～6月18日(日)

休 館 日：毎週火曜日、但し5月2日（火）は開館、3月17日(金)までは冬期休館

会 場：清里フォトアートミュージアム

開館時間：10：00～18：00（入館は17:30まで）

入館料： 友の会・会員 無料 一般 800円（600円） 学生600円（400円） 中・高生400円（200円）

（ ）内は20名様以上の団体料金 家族割引 1200円（2名～6名様まで）

交通のご案内 車にて：中央自動車道須玉I.C.または長坂I.C.より車で約20分

J R：中央本線小淵沢駅にて小海線乗り換え 清里駅下車、車で約10分

清里フォトアートミュージアム（K・MoPA）は、1995年に開館した写真の美術館です。当館の活動の中で、最も重点を置いているのが**ヤング・ポートフォリオ(YP)**です。毎年35歳以下を対象に公募を行い、選考ののち、優れた作品を当館のパーマネント・コレクションとして購入することによって世界の若手作家を支援する活動です。通常、コンテストの入賞は1度限りですが、YPは、表現意欲の高い作品を35歳まで何度も公募し、成長を見守ります。作家の世界観や芸術性を表現するポートフォリオ（作品集）となるように、一枚だけでなく複数の作品を収蔵することが特徴です。YPは、若者の才能の真価を世に問い、後世に伝える、世界で唯一の活動です。

YPデータベース公開中

収蔵作品画像のほか、作家略歴、アーティスト・ステートメントを掲載しています。作家名、収蔵年、国籍などで検索することができます。過去20年にわたる世界の若手写真家の作品を、様々な調査・研究の対象としてもご利用いただければ幸いです。

当館のウェブサイトwww.kmopa.com ▶ YOUNG PORTFOLIO ▶ YPデータベースへ

イベントのお知らせ

●YP2016公開レセプション & アーティスト・トーク 5月27日(土) 午後2時～4時

講評：張 照堂、北島敬三、細江英公 (館長)

入館料のみ / 定員なし / **要予約** / どなたでもご参加いただけます

会場：清里フォトアートミュージアム

当日出席する作家に作品永久保存証書を授与した後、作家自身によるトークと、3人の選考委員による講評を行います。若手写真家にとっては、第一線で活躍する選考委員から直接講評を受けられる貴重な機会となります。

写真上：昨年公開レセプションの様相

写真下：収蔵作品《ヤズディ》について語る林典子氏



●K・MoPAで星をみる会

星の美しい清里ならではの観望会。毎年春&秋に開催しています。テレビ・ラジオでお馴染み、国立天文台の縣秀彦先生を講師にお迎えし、天体の不思議を、初めての方にもわかりやすく解説いただきます。雨天・曇天でも映像&レクチャーをお楽しみいただけます。

●日時：4月15日(土) 午後6時30分～8時

●参加料：1000円 / **要予約** / 定員15名 / 友の会・会員は無料

●講師：縣 秀彦 (あがたひでひこ)

自然科学研究機構国立天文台普及室長、天文情報センター室長 准教授、NHK「ラジオ深夜便」第二週日曜日レギュラー



お問い合わせ

●内容や掲載用画像データにつきましては、事務長・小川 ogawa@kmopa.com

広報・前島 maeshima@kmopa.comが承ります。 Tel: 0551-48-5598

ホームページ <http://www.kmopa.com>

ツイッター <https://www.twitter.com/kmopa>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kmopa>

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545-1222 清里フォトアートミュージアム

Tel: 0551-48-5599 (代表) Fax: 0551-48-5445 Email: info@kmopa.com